



丁寧な事前・事後学習により 海外研修の効果を最大限に引き出す

山形東高等学校(山形・県立)



学術都市ボストンで グローバルリーダーの資質を育成

県内屈指の進学校である山形東高等学校は、1年次希望者を対象に11日間のアメリカ研修を実施している。この数年間、普通科の一部改編による探究科の立ち上げ(2018年度開設)を軸とした学校改革に取り組んでおり、その一環として2015年度より海外研修を開始した。

訪問先は世界有数の学術都市ボストン。研修のメインテーマは、観光や語学の習得ではなく、視野の拡大と、グローバルリーダーとしての資質を育むことだ。また、進路について考えを深める機会にもなっている。

アメリカ研修の概要

ねらい	(1)世界を知り視野を広げることで将来の進路選択の幅を広げるとともに、学ぶ意欲を更に高める。 (2)日本と全く異なる環境で一人一人がリーダーシップを発揮し、より自主的・協力的に行動する力を高め、自ら考える力を養う。		
訪問先	アメリカ(ボストン)		
対象/定員	1年生(希望者)/30人程度		
時期/期間	12月/9泊11日		
主なプログラム	ホームステイをしながら、語学学校の授業、語学学校に通う他国生との交流、マサチューセッツ工科大学やハーバード大学などの訪問と日本人学生との交流、現地で活躍する日本人ビジネスマンの講演・交流 など		
事前学習	オリエンテーション4回、訪問先についての調べ学習、語学力測定		
事後学習	報告書の作成、ポスターセッションなどでの発表		
生徒負担費用	約40万円	研修開始	2015年度



>> 事前・事後学習

一人ひとり目標を明確に

事前オリエンは全4回実施。研修趣旨に基づき、各自が研修で伸ばしたい力や乗り越えたい課題を個人目標として設定し、さらに、先輩たちの学びの記録を参考に自分たちの取り組み方を話し合うなど、目的意識を引き上げる。それが研修中、先を争って外国人留学生に話しかけるなど積極的な行動に。研修中には要所で振り返りを行って気持ちを引き締め、帰国後はレポートを作成・発表する。



>> プログラム

多様な人からの刺激を重視

研修プログラムは多様な「人」との交流を重視して設計されている。午前は語学学校にて、目的意識や学習意欲の高い他国生と共に授業を受講。午後は、ハーバード大学やMITに通う日本人学生に大学を案内してもらったり、現地で活躍する日本人起業家と交流したり。異国で挑戦する人たちの視野の広さや考え方に刺激を受け、自分を見つめ直す機会としている。



>> 業務負担の軽減

代理店や他教員と役割分担

研修実施にあたって教育旅行代理店にサポートを依頼。プログラム設計や現地コーディネートは代理店の力を借りることで、教員は生徒への対応・指導に注力することができ、実施初年度から充実した研修になったという。また、研修には代理店スタッフと共に教員1人が同行(費用は学校負担)。引率教員の授業や他業務は全校体制でフォローし、負担が集中しないよう配慮している。

先生からひと言 /

主体的・積極的な学校生活、高い進路目標設定に好影響

アメリカ研修を開始して3年経ちますが、希望者は年々増加傾向にあり、昨年度は対象学年の約5人に1人が参加しました。背景には、海外経験への関心の高まりのほか、参加して成長した先輩たちの影響もあるのではないのでしょうか。

研修には各自が目標をもって臨み、勇気を出し

て行動してみてもう良かったという達成感や、思うようにコミュニケーションがとれなかった悔しさなど、様々な思いを抱えて帰国します。居心地のよい日本を出てはじめて自分の視野の狭さに気づく生徒も多いでしょう。そうした経験が、学校生活での主体性や積極性、高い進路目標につながっていると感じます。(森 美千子先生)

参加費以外の学校負担費用



約34万円

※引率教員の旅費
(県費 国際探究科支援事業より)



教育企画課および
1年次団



アイエスイ